北海道倶楽部
毎月１回１日発行　定価８０円
公益社団法人北海道倶楽部
〒100-0014 東京都千代田区永田町2-17-17 北海道東京事務所1 階
TEL 03-3581-4021 FAX 03-3581-4022
E-mail hkkd-clb@soleil.ocn.ne.jp
http://www.hokkaido-c.or.jp/

We Love Hokkaido 北海道 "NOW" KITAKARA

北海道情報紙 知らないこと いっぱい！！

HOKKAIDO CLUB SINCE 1927

松田昌士・名誉会長死去

北海道倶楽部前会長（現名誉会長）で、ＪＲ東日本の社長、会長を歴任した松田昌士（まつだ・まさたけ）氏が５月19日、東京都内で肝臓がんのため死去した。84歳だった。「国鉄改革３人組」の一人として国鉄分割民営化に尽力、１９８７年、新生ＪＲをスタートさせた。倶楽部では２００１年から昨年まで会長（代表理事）を務め、ことあるごとに「みんなで北海道を元気にしようよ！」と呼びかけた。ＪＲ東は後日、お別れの会を開く。

国鉄分割民営化に指導的役割
倶楽部会長として18年間活躍

松田 昌士 氏

１９３６年（昭和11年）、北見市出身。３月死去した西村守正・元倶楽部理事長、岡村進相談役とは札幌北高の同級生。61年北大大学院法学研究科を修了し国鉄（当時）に入社、86年国鉄再建実施推進本部事務局長に就任した。

87年の国鉄分割民営化で発足したＪＲ東日本で常務取締役、93年社長、２０００～06年に会長を務めた。11年同社顧問。

松田氏は民営化後、ＪＲ西を率いた井手正敬氏、ＪＲ東海の葛西敬之氏とともに、国鉄改革３人組とも呼ばれ、中でも松田氏はリーダー的な役割を担った。

国労など組合との交渉は、難航を極めたが、その経緯を08年、日経新聞の「私の履歴書」に寄稿している。

北海道をこよなく愛し、倶楽部では18年間にわたって、会長を務めた。親分肌で、パーティーなどのあいさつは常に短く１分足らず。「あいさつより皆さんで親睦を深めた方がいい」がモットーだ。倶楽部会員の高齢化を心配し、会員には機会があれば「若い人たちをぜひ誘ってほしい」とはっぱをかけていた。

公職も多く、日本ユネスコ連盟会長に就任したほか、11年には「日本の伝統を守る会」を設立し、会長に。また、バルカン半島の国、マケドニアの名誉総領事を引き受け、一昨年９月、倶楽部の間瀬雅晴評議員会議長らとともに同国を訪問、交流を深めた。

趣味の囲碁はアマの高段。社会人野球を統括する、日本野球連盟会長を務めアマチュア野球の活性化に力を尽くすなど、文化・スポーツ振興にも情熱を傾けた。

交流イベントで談笑する松田氏（右）と川村・現倶楽部会長＝2019年10月、都内で

2人が語る松田さんへの思い

北海道倶楽部で、ＪＲ東日本で、苦楽をともにしてきた2人に、松田昌士さんを偲んでもらった。

倶楽部前理事長で現相談役の**岡村進さん**は、３月亡くなった西村守正・元理事長とともに、札幌北高の同級生だ。「相次いで2人が逝ってしまうなんて…」とショックは隠せない。

松田さんは北高に途中転入してきた。「当初は目立たなかった」といい、「転校生だったから遠慮していたのでは」と岡村さんは推測する。

ＪＲ東日本の社長時代もよく連絡があり、食事などをともにした。「いろんなことを語りあった。北海道と鉄道を愛し、とにかくスケールが大きかった」と振り返る。

東京駅長を務めた**江藤尚志さん**（**倶楽部会員**）は、１９９１年から20年間にわたって松田さんの秘書に。「最初のうちは怖かった記憶がある。民営化からまだ時間がたっておらず、会社の将来を考えピリピリしていたのだろう」

松田さんはアイデアマンとしても、定評があった。「例えば東京駅の『空中権』などが代表的。鉄道マンにしては意外だが、『日本は島国だから海運は重要』とよく話していた」と、江藤さんは偲んだ。

北海道新幹線は青函トンネル内で、貨物列車とのすれ違いのため、速度抑制を強いられる。生前の松田さんが講演などで「北海道ー本州間の貨物はすべて船を使えばいい。新幹線のスピード問題も解決する」と訴えていたのを思い出した。

野口さんが旭日双光章
ホテル業界に貢献

北海道倶楽部会員で、野口観光グループ（登別市）社長の野口秀夫さん（72）が、春の叙勲で旭日双光章を受章した。野口さんは「受賞は『もう少し励め』という言葉いただいたものとして感謝している。さらなる地域、ホテル・旅館業界の発展振興に努めたい」と話している。

野口さんは早稲田大を卒業後、１９７１年に登別プリンスホテル（現野口観光）に入社。99年に社長に就任し、今では道内で17施設を経営する。全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会の副会長を２００５年から13年まで務めた。

リーマン・ショックなどで、全国的に宿泊業が試練に立たされている当時、先進事例を若手経営者に周知するなど、業界に大きな貢献をした。

コロナ禍で業界は苦境の真っただ中。「若干でも先行きが見えてきており、もうひとときの辛抱だ」と力を込めた。

事務局からのお知らせ

北海道倶楽部は今後の主ベントは自粛する方向で催事業について、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、６月の評議員会、理事会で決める予定です。

当面の間、いわゆる「三密」を生じさせる会議、イウドやチャット会議を使用するなど、できる限り在宅で対応がきるよう工夫しています。

内閣府とは事業計画や予算の変更について電話で話し合いました。倶楽部で取り止める事業と代わる事業の議論が必要になります。

今後は政府の示した「新しい生活様式」「働き方の新しいスタイル」を取り入れていきます。

４月理事会ではすでに対面を避けられるよう、６月の理事会の「書面理事会開催」、評議員会の「電子的評議員会の開催」や「在宅・テレワークを制度化した就業規則」が決議されていまれていきます。

北海道倶楽部

鈴木知事就任１年
コロナ対策などに全力

★北海道倶楽部会報は、北海道新聞社から記事、写真の協力を得て、作成しています。

鈴木直道・北海道知事＝写真＝が就任から1年を迎えた。公約に掲げた道内の経済活性化策、「ほっかいどう応援団会議」の設立、東京五輪・マラソン、競歩の札幌開催などに全力を挙げて取り組んだ。新型コロナウイルスの感染拡大を受け、国に先駆けて道独自の「緊急事態宣言」を発令、道民に外出自粛を呼びかけるなど積極姿勢を見せた。コロナ禍の中で、知事が道政の幅広い課題にどう対応するかが、今後の焦点だ。

知事の選挙公約は、経済、観光政策、人口減対策、学力向上など教育政策、医療、介護、少子高齢化など福祉分野、アイヌ文化振興、縄文遺跡群など文化政策など多岐にわたる。

このうち観光分野では、道内の食や観光の魅力を海外に伝え、年間５００万人の海外観光客を呼び込む目標を掲げた。フィンランド・ヘルシンキから、新千歳空港への直行便がすでに実現している。

目玉政策でもある「ほっかいどう応援団会議」は昨年９月に始動。企業から支援を募り、道内の活性化を目指す狙いで、北海道倶楽部もメンバーだ。現在３８００の企業・団体と、２８００人の個人が参加。ＬＩＮＥやフェイスブックなど、会員制交流サイト（ＳＮＳ）にも、多くの人たちが登録している。

一方、カジノを中心とする統合型リゾート施設（ＩＲ）の誘致を巡っては、昨年11月「将来再び挑戦するが、今は見送る」と、慎重姿勢に転換。その後、国会議員らの汚職事件で全国的にＩＲ誘致機運がしぼんだこともあり、本年度予算への計上を見送った。

鈴木知事は当面、第２波とされるコロナ感染拡大対策に全力投球する構えだ。就任１年の記者会見で「新型コロナの問題を早期に解決していく中で、公約達成にも影響を受ける。効果的に事業を執行できるよう検討を進めたい」と本年度予算を組み替えながら、対応していく考えを示した。

松田名誉会長死去で道がコメント

道は５月25日、**松田昌士倶楽部名誉会長**の死去を受け、お悔やみのコメントを出した。

この中で、北海道への愛着、経済を支えた国鉄、ＪＲでの貢献を最大限に評価、「北海道を離れてからも、**北海道倶楽部**の会長、名誉会長として、本道を常に優しく見守り、温かい支援の手を差し伸べてくれた」と、感謝している。

「ふるさとの本」ご案内 北海道新聞社

ヒグマ大全

著者半世紀にわたるヒグマ研究の集大成。「身体」「行動と習性」から「アイヌ民族とヒグマ」までを長年の調査をもとに詳述する。明治期からの年度別捕獲頭数などの貴重な統計資料付き。この一冊でヒグマのすべてが分かります。

◆ 門崎允昭 著
A5変型判　272頁　定価（本体2200円＋税）

増補新版
北海道野鳥観察地ガイド

北海道の代表的な観察地79カ所を詳細な地図と写真で紹介。大好評の観察地ガイドが内容を一新、札幌・旭川など都市近郊がさらに充実。野鳥写真家として活躍する著者ならではの、野鳥の生態を生き生きととらえた写真も満載。

◆ 大橋弘一 著
A5判　240頁　定価（本体2000円＋税）

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 ☎011-210-5744（出版センター）
受付９：30～17：30（土日・祝日除く）お求めは書店、インターネットで。
出版センターにお電話いただければ直接手配もいたします（代引き・送料別途）。